

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所独自の理念はあるが、地域密着型としての理念を掲げていない、しかし地域の一員であると理解し生活に活かせるよう取り組んでいる		・本社経営理念:「私たちは、医療・福祉関連事業を通じて、良質で均一なサービスを提供し、地域社会の医療と福祉の向上に貢献することを使命とします。」経営理念を基本として地域に根ざす取り組みをしていきたい
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・事業所の理念を『心』とし「一人ひとりを思いやる心」「その方の今をやさしく見つめる心」を掲げ、職員自ら考えた介護方針を心に日々取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・理念を意識しているものではないが、常に家族には普通の家庭生活を生活を送れるようにしたいと話している。その為の協力をお願いしている。		・家族会を通して地域との関わりを話し合っていきたい
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・建物の構造上玄関が奥まってしまっているのですが、なかなか気軽に立ち寄ることは難しいようであるが、庭越しで話をしたり散歩中挨拶を交わしたりといふ付き合いができています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会に加入し班長も引き受けいる、回覧板に目を通し地域活動にも関心を持つようになっている ・老人会・地域の運動会などにも積極的に参加している		・町内会の班長の任期が3月末で終わり、自治会の組織変更のため会社・施設等町内会への加入ができなくなるが、今後も運動会等の行事・地域活動は参加して行く

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			・今後地域へ認知症をもっと知っていただけるよう、講習会や地域の方々へ介護相談等もやっていければと考えている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・2回実施しているがその都度改善すべき点は改善できるように取り組んできたし改善してきた		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議を行っている ・ホームのお年寄りは穏やかに暮らしているのに何を言えばいいのか、職員もよくやっていると思う。この会義の意義が分からないとの意見があった。 ・内部の問題は色々あると思うので(人手・研修)内部の問題が解決されてから会議を開いてはどうかとの意見があり、取り組んでいる		・行政・包括支援センターの参加いただけていない(多忙理由)今後呼びかけていく ・会議の形態を変えて開催を検討中(家族会・ホーム行事に参加等)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・千葉市の担当者とわからないことなど率直に質問している ・千葉市認知症高齢者グループホーム連絡会役員をしているので懇談会とうで行政と話し合う機会を作っている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・職員は管理者が制度の存在を話す程度で、研修としては実施していない ・現在利用している方がいる、必要と思われる方の家族には管理者が説明しているが活用していない		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修に参加させている ・起こり得る虐待(身体・言葉)を計画作成担当者・主任を中心に職員教育に取り組み防止に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約時説明の途中、不明な点がないか確認を行い疑問等のないように分かりやすく説明している。契約終了後必ず不明な点が出てきたら説明をさせていただき旨伝えている。退居時は退居理由を事前に家族と十分話し合い納得した上で手続きを行っている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・職員は一人ひとりの様子見て何か思いがあるなど察した場合、会話の中で聞き出し、それを管理者へ伝え改善に努めている ・家族等にも不平・不満を聞いてあげてほしいと頼んでいる ・入居者が言いやすいよう会話を持つようにしている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・暮らしぶりや健康状態など家族来訪時や電話でその都度報告をしている ・職員移動等については、家族会の集まりやさらにこ新聞等で報告している</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・意見、不満、苦情が言いやすいよう家族に接している、外部の機関は契約・重要事項説明書に記載し説明している</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・ミーティングや個別面接を設け聞く機会を設けている事業所単位で改善できることは反映させ、本社に挙げものは本社の事業所担当者に挙げ交渉している</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・入居者の状況に合わせ職員の勤務調整を行っている ・職員と話し合い必要な時間帯に配置調整を行っている</p>	<p>・配置基準の配置では認知症介護は難しく、個別支援どころではない、運営上の問題はあるが増員のため求人活動をしている</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・各ユニット職員は固定にしている、退職を考えている職員と留まれる方向性はないか話し合い離職者をなくすよう努力している</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・定期的に所内研修を行っている</p> <p>・人材育成を充実させるため、計画作成担当者と主任の業務を分けている</p>	<p>・主任がOJTを行い職員のスキルアップを目指す</p> <p>・他のグループホームとの交流、研修ができる体制</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・千葉市認知症高齢者グループホーム連絡会に加入しており、役員にもなっている、会が開催している研修会や交流会へ職員を参加させている</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・職員の趣味や娯楽のための希望休はストレス解消に必要と考え極力取れさせている</p> <p>・入居者から離れ休憩を取れるよう、休憩室を設けている</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・職員の勤務状況・実績に応じて非常勤職員 契約社員 正社員とステップアップできるようにしている</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>・ホーム内の見学、面接をして話し合い、安心して生活できるよう本人の不安を聴いている</p> <p>・本人の意向を尊重するよう職員に情報を提供し、共有することでその人なりの生活が送れるよう努力している</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>・面接をして家族の話に耳を傾け、共感し、受け止めている</p> <p>・家族の意向を尊重するよう職員に情報を提供し意向に沿ったケアができるよう努力している</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居者、家族の意向を踏まえた対応をしている ・本人のこれまでやってきた趣味活動、リハビリ等は家族と話し合い家族の協力を得て継続できるよう努めている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・体験入居から開始し、職員・他入居者・ホームに馴染んでいただけるよう心がけ、家庭の延長のような生活が送れるよう支援している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員と入居者としてではなく、同じ立場でお互いを支え合い喜び、悲しみを共有する関係を築いている ・人生の大先輩であり、生活の知恵を発揮する場面では教えていただくことが多い		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・家族の支援協力を常にお願している ・本人の状況を相談し、改善に向けて家族と共に本人を支えている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・これまでの本人と家族の関係を聞き取り理解したうえで、本人の思いを伝えることでよい関係を築けるよう支援している ・行事等の参加をお願いし関わるきっかけを作っている ・本人の精神的安定にも繋がっている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人の大切にしてきた物や場所・人を把握しており、家族の協力を得て出かけたり、会いにいたりしている ・葉書や手紙を用いて、連絡を取る方もいます		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・相性や性格により、コミュニケーションが取れない方にも職員が中に入り話せるよう機会を作り孤立しないよう努めている ・散歩や買い物、レクリエーションを通して助け合うきっかけをつくるよう努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・受け入れ先など紹介し、不安の無いような支援は行っているが退居後は本人が混乱起こす可能性があるため会いに行くなどの行為は行っていない		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何をすることも、強制はしません ・本人の意思で行動した事は、うまく出来るようにサポートすることを心がけています ・入居者様ご本人の意思を尊重し要望を実現することに努めています		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・現在の暮らしを快適に過ごして頂く為に個人ファイルや医療機関を活用して、生活歴を明確に把握するようにつとめています		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・状態は日々変化するものなので、職員間で気づきの部分を申し送りやノートを活用して連携をとっています		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・日々、申し送りやカンファレンス等で情報交換や状態の把握を心掛けています ・各フロアでは、主任を中心に対応の統一に努めています		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・カンファレンスで出た意見を元に十分なアセスメントをして介護計画をしています ・場合により、ご家族の協力を求める支援を取り入れていきます		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・経過記録や医療記録簿を利用して情報の共有に取り組んでいます ・情報の共有により、様々な発見に繋がり、見直し、実践、結果へ導く		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族の状況、要望(受診、冠婚葬祭)に応じた送迎、同行支援を行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・家族による週1回のウクレレ演奏・地域の方の不定期ではあるがハーモニカ演奏・小学生の体験学習の受け入れ・消防による定期点検		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・他のサービスは運営上利用していない		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターとの協働はしていない		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人・ご家族は薬・医療に対して敏感なので、認知症に対する知識が豊富である事と個人的な特性を把握している事、経過・状態報告を親身に支えて下さる医師の協力を仰いでいる ・疾病、状態に応じ家族と相談し医療機関の使い分けしている		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・月に1度、認知症に詳しい医師の受診を受けている</p> <p>・状態により検査を受け症状に合わせた治療をおこなっている</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・週2回、定期的に訪問看護師がホームに来訪し、健康チェックをしている</p> <p>・訪問看護師は気軽に相談でき、夜間であっても対応してくれる</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・管理者が病院のソーシャルワーカー、医師、家族と情報交換を行えるだけ早期に退院できるよう努めている</p> <p>・入院時は寂しくないよう、職員が交代で見舞い行き元気づけ安心して療養できるようにしている</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・重度化した場合、早期に終末期を何処で送り、看取るかを家族と話し合う(病院・療養型・ホーム)。ホームで最期までと希望された場合、家族の思いを優先に主治医と相談し医療、介護の方針を職員全員で共有し、本人の不安、恐怖を軽減できるよう努める(主治医・家族・職員の協力により1名の入居者を昨年看取っている)</p>		<p>・ターミナルケアマニュアル作成する予定(進行形)</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>・孤立しないよう体調が良いときは他入居者と一緒に過ごして頂くなど、寂しくないよう、不安にならないような声かけを行い家族と共に支援している</p> <p>・医療面では主治医による往診、急変時の連絡体制は確立されている</p> <p>・ホームの「できること・できないこと」を家族へ明確にしている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>・管理者が家族と話し合い、本人に良いと思われる受け入れ先の情報提供と紹介をしている</p> <p>・本人が受け入れ先でスムーズに生活出来るよう情報提供している</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>・「尊重」を一つのテーマとして徹底しています ・否定するのではなく、本人の発言を受け止める事で、本人の気分を損ねる事なく、精神的ケアを実現しています</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>・認知度により、伝わる言葉の範囲に差が出てしまうので、本人のレベルや馴染んだ言葉を組み込みながら伝えています ・本人の自己決定を優先しています</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・個々の生活リズムは異なりますので、個人の生活パターンを把握した上で、本人と向き合い要望・希望を受け入れた支援をしています</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>・朝・夜のメリハリを付ける生活を営んで頂ける様に、着替えや身だしなみを正して頂いています ・理容・美容に関しては、本人の意向を取り入れる事で外出やご家族と関わるきっかけにもなっています</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・「できること」をしていただきながら、協働して食事作りをおこなっている ・力に応じた支援、自らの力で食事をする楽しさや喜びを感じて頂ける支援を心掛けています</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのおものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>・既往症で身体に与えるリスクが大きい場合は医師やご家族の許可を得て行っている ・我慢や欲求が満たされない場合、精神面に与える影響が強い為、支援方法を検討しています</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・トイレの定期誘導によりできるだけ失敗の無いよう支援している ・排泄パターン、習慣を把握し気持ちよくトイレで排泄できるよう支援している ・起床時は、必ずトイレを促しています		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・体調や本人の意思を尊重し、希望に応じた入浴を実行しています ・良いイメージで入浴を終えていただく様に対応しています		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・高齢という事もあるので、昼夜逆転しないように身体を休めて頂いています ・申し送り等で1日の状態を把握して不眠解消・体調管理に取り組んでいます		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・女性の方は、食事作りや掃除を手伝って頂いています ・男性の方は、自分の身の回りの管理能力を活かしています ・レクリエーションや外出・買い物による気晴らしも定期的に行っています		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自己管理できる方に関しては、自分で管理・使用して頂いています。 ・力に応じ金銭の受け渡しを行っていただいています。つり銭の間違いが無いよう混乱が無いようさりげなく支援している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・入居者の方からの一言に注目して、臨機応変に対応する様に支援しています (犬の散歩など) ・皆様、天気や体調により、外出を希望されるので、要望に答えられる様に努めています		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・団体行動では、遠出をする事が難しいので、誕生日や個人的なお祝い日に本人が望む場所に出かける機会を作っています ・ご家族との係わりは、外食・外泊が主です		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が電話連絡を希望している場合、使い方が分からない場合は職員が電話をかけ、相手が確認できた時点で、本人と替わり話して頂きます ・相手に伝わり辛い状態であれば、内容をまとめて代わりに伝えている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・いつでも気軽に来訪していただけるよう、来訪者には家族的に接している ・来て良かったと思って頂ける様な対応を心掛けています		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束はしません。 ・怪我をさせてしまう恐れがある場合、リスクが高い場合は、ご家族への確認・事業所内での検討をさせていただきます		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・鍵は閉めません。 ・そのお陰で玄関を行き来して、洗濯や掃除に出る方もいます ・職員の連携が出来ている事で実現されている事だと感じます		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・個人のプライバシー保護を守っています 1日の過ごし方に対して、干渉・強制も致しません ・安全確認の為、定時に声掛け・様子観察に向く事はあります		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・危険なものは鍵のかかる場所に保管し、注意が必要な物は職員が必要に応じ出し入れする管理をし、すべて排除するのではなく、できるだけ普通の家庭に近い状態で生活できるような取り組みをしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・緊急時の対応として、ホーム内での勉強会に取り組み、事故防止に努めています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・月1回テーマを決め研修の日を作り、全員が参加できるように同じ内容で2日研修日を取り、どの程度理解されているかレポート提出している		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年に1度行い、常に職員間で話し合っている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・家族会、面会時に時間を作っていただき、起こり得るリスクを説明しリスクを抱えながらも、その方なりの暮らしができるよう家族と話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日、午前必要に応じ午後バイタルを測定し、少しの変化も見逃さず、またそれを職員全員に報告観察している ・協力診療所の訪問看護ステーションと医療連携体制をとり、週2回体調管理を行い、様子がいつもと違うと気付いた場合訪問看護師へ相談し速やかな対応を行っている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとりの病気を把握し、その上で薬の用法・用量・目的についても理解、入居者に対しても説明出来る様にし、症状変化を確認・報告している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・毎日、チェック表で管理し、薬ばかりに頼らず飲食物・体操・散歩等一人一人に働きかけている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・必ず毎食後の口腔ケアをし、特に寝る前の口腔ケア、入歯の洗浄、入歯がその人にあっているか等を見ている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・その人に合った食事形態にし、水分はチェック表にて管理している ・その方の好みも考え、食べたい、飲みたいという意欲をもってもらえるよう支援している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・インフルエンザなどはご家族の協力も用い、予防接種を全員が受けている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・熱湯消毒、塩素系漂白剤など、その都度行い、残ったものはその日の内に処分している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関前にはベンチを置き、花壇には季節の花を入居者の方と植え楽しんでいる		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・花を置いたり、コタツを置いたり、皆が自然と集まってこられる場所になってくれる様工夫している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ところどころにソファを置いたり、掘りごたつを置いたり、時には独りで、時には仲間同士でといった工夫をしています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・今までの馴染みの物、今までの生活に最も近い状態を家族に協力していただき安心して生活出来るよう工夫している		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・暖房のこまめな調整、タイマーでの調整、加湿器を置くなどして湿度にも気をつけている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・なるべく物をおかず、手すりを多く付け、その人の持っている機能を最大限に活かせる ・廊下は広く、車椅子での自走、歩行器でのリハビリも余裕を持ってできる		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・居室・トイレ等、その人が解り易い様、花や表札を付ける等して工夫している		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・リビングの前にはウッドデッキがあり椅子・テーブルを置きお茶をしながらの会話を楽しんでいる、広い庭には花壇を作り季節の花を植えたり、活動できるようにしている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者様にとって最終の場と考えており、笑顔で最期を迎えられるよう一日一日を大切に心のこもったケアを心がけている。
- ・家族との関わりを大事にし、相談・要望を話しやすいよう家族的に接している。